

弦楽器・弦楽四重奏

【事前学習】



【学習前アンケート】 □に check ✓ をつけてください。

- Q1, 弦楽器の演奏経験は？ □ある (楽器名: _____ 期間: _____) □ない
- Q2, 弦楽器の生演奏を聴いたことは？ □ある (曲・場面: _____) □ない
- Q3, 弦楽器は身近な存在ですか？ □はい □いいえ □どちらでもない
- Q4, 弦楽器の「魅力」「イメージ」「今現在、知っていること」は？ (*思いつくことをたくさん記述しましょう!)

()

1年 組 番 氏名:

弦楽器に親しもう！【事前学習】

1, 授業で使用する楽器について学習しよう！

■ヴァイオリン

ヴァイオリン属の弦楽器の中で最も小さく、最も_____音域を出せる楽器です。声楽では_____の音域にあたります。はっきりとした起源・発明者はわかっていませんが、7,8世紀ごろに擦弦楽器の一つとされるレバック(Rebec)などが段々と改良され、15世紀の末期にはビオール(Viol)という楽器に進化し、やがて現在の形になったといわれています。また16世紀中ごろには、現在のものとほとんど変わらない高度に完成されたヴァイオリンが出来上がっていたとされています。17世紀以後、イタリアでは_____・_____などの製作家たちが活躍しました。この時代のヴァイオリンは現在でも「名器」として受け継がれています。

■ヴィオラ

ヴァイオリンよりも_____があり、やや低い音域を出せる楽器です。声楽では_____の音域にあたります。ヴィオラのために書かれた独奏曲は少ないため、影の存在になりがちですが、内声部を支える縁の下力持ちとして大変重要な楽器です。オーケストラの中では弦楽器と管楽器の仲介役としての役割を持っています。ルネサンスやバロック時代は膝に挟んで演奏するヴィオラ（ヴィオラ・ダ・ガンバ）とあごに挟んで演奏するヴィオラ（ヴィオラ・ダ・ブラッチョ）の2種類がありました。後者のあごに挟んで演奏するヴィオラが現在のヴィオラの祖先にあたります。18世紀の中ごろまではオーケストラでしか使用されていませんでしたが、_____の発達・発展に伴い、_____に欠かせない楽器となりました。

■チェロ

チェロの音域はヴァイオリンやヴィオラより_____なのですが、その音域は私たち_____に一番近い楽器と言われています。声楽では_____の音域にあたります。構造的にはヴァイオリン等とほぼ同じですが、_____と_____を出すために全体が大きく作られており、特に木の_____も増しています。弦も太く丈夫に作られており、それに伴って弓もヴァイオリンと比較して太いですが、長さは逆に短くなっています。今のチェロの形になる前の楽器(ヴィオラ・ダ・ガンバ)などは両足で挟み演奏していましたが、現在では改良され、_____を伸ばし床に立て安定させて演奏を行います。この改良によりチェロの演奏技術が飛躍的に大きくなっていきました。現在のチェロの演奏スタイルが確立されたのはヴァイオリンより200年ほど後のことです。18世紀になるとバッハやヴィヴァルディといった作曲家の登場によって多くのチェロ作品が作曲され、ヴァイオリンに並ぶほどの独奏楽器に発達していきます。

【楽器の材質について】

3種の楽器とも、一般的に、表板には_____、横板と裏板には_____が使われています。同じ種類の木材でも産地により、また1丁1丁でそれぞれ違いますし、木目によっては高級なものとして扱われています。木材は伐採され、乾燥させたものを使用しますが、この乾燥にかける年月によっても価値が違ってきます。楽器の命である_____を良くも悪くも左右するのは木材であり、楽器を形成する材質が非常に重要な要素となっています。

2、楽器の「音色・響き」を聴き比べ、それぞれの印象や特徴など、気付いたことを記入しよう！

■J.S.バッハ作曲：「無伴奏チェロ組曲第5番」より ※同じ曲を異なる楽器の演奏で聴き比べましょう。

3種類の楽器（Aヴァイオリン・Bヴィオラ・Cチェロ）の「音色・響き」を聴き比べて気付いたこと。

3、「弦楽四重奏（String Quartet）」の多彩な響きを味わい、その特徴や魅力について記入しよう！

「弦楽四重奏」は、ヴァイオリン属4本の楽器からなる合奏形態を指し、____丁のヴァイオリン、____丁のヴィオラ、____丁のチェロによって構成されます。主に1stヴァイオリンが____、2ndヴァイオリンとヴィオラが____、チェロが____を受け持ちます。歴史上、最初の弦楽四重奏曲は、イタリアの作曲家スカルラッチェ（1660-1725）の作品だと言われています。その後、他の作曲家もこのスタイルを真似して楽曲を作り始めてヨーロッパ中に広まり、「弦楽四重奏曲の父」と呼ばれた____へ受け継がれていきました。モーツァルトやベートーヴェンも作曲したことにより、弦楽四重奏はクラシックの王道であると言われるようになり、後の音楽家にも大きな影響を与えました。

主な
役割

- ・第1ヴァイオリン…カルテットのリーダー役。旋律を奏で、全体をリードしていく。
- ・第2ヴァイオリン…第1ヴァイオリンに寄り添ったり、ヴィオラと共に内声部を構成したりする。
- ・ヴィオラ …内声部を支えつつ、ヴァイオリンとチェロとの仲介役を担う。
- ・チェロ …縁の下の力持ち。でも実は下から音楽性の方向を導く影のリーダー(?!)。

■ハイドン作曲 弦楽四重奏曲第39番より 第4楽章 ロンド （約3分）

■ボロディン作曲 弦楽四重奏曲第2番より 第3楽章 ノクターン （約8分）

■ドヴォルザーク作曲 弦楽四重奏のための2つのワルツより 第2曲 （約3分）

■【映像】ブラームス作曲 弦楽四重奏曲第3番より 第3楽章 （約8分） 奏者の役割や動きに注目してみよう！

4、基礎知識①【楽器・弓】

周囲の人と協力して【 】空欄をうめましょう！

■楽器本体

①【 】

楽器本体に張ってある線の事です。低い方の三本はナイロンかガット（羊の腸）に金属が巻いてあるもの、高い方の一本は芯まで金属（スチール）で出来たものが通常使用されます。ドイツ語の音程で呼ぶのが通例です。

②【 】

弦と胴体をつなぐ木片。立てる位置や削り具合で音量・音色、弾き加減が大きく変化します。

③【 】

指を押さえる黒い部分です。調整具合によって、音程の取りやすさも大きく変わります。

④【 】

弦を巻き付ける部分。回すことも技術が必要になります。また、動きにくい場合は調整が必要です。

⑤【 】

弦の張りを微調整するための器具。

⑥【 】

ヴァイオリン・ヴィオラを演奏する際に支える補助器具。本来はなくてもよい器具ですが、現在は使って演奏することの方が多いと云えます。

⑦【 】

床に刺してチェロを支える棒です。コントラバスにも付いています。伸縮可能で、演奏者の身長（座高）などに合わせて調節します。ヴァイオリンやヴィオラは弦の張力に耐えるパーツとしてついています。

■弓

⑧【 】

弓の棒の部分。通常、木製・カーボン製。この棒の材質や削り具合で音量・音色・弾き加減が大きく変化します。

⑨【 】

馬のしっぽを使用します。松脂（まつやに）を塗ると音が出るようになります。半年～一年に一度程度の周期で交換が必要です。

⑩【 】

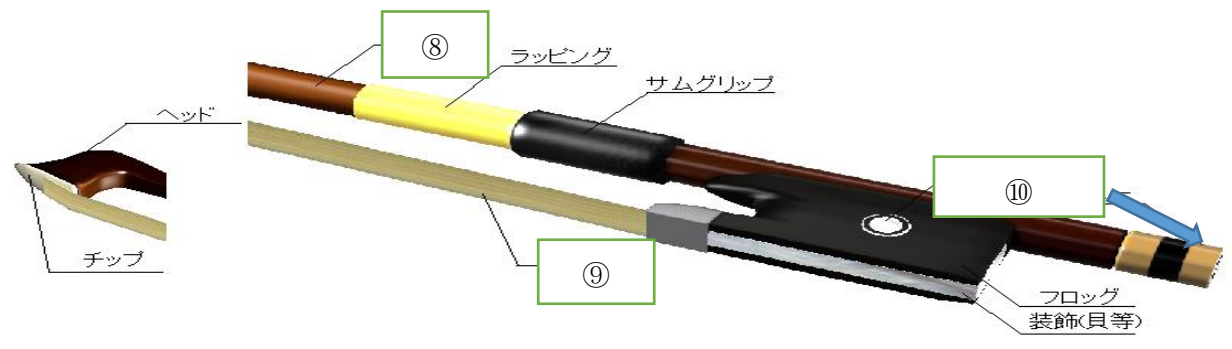
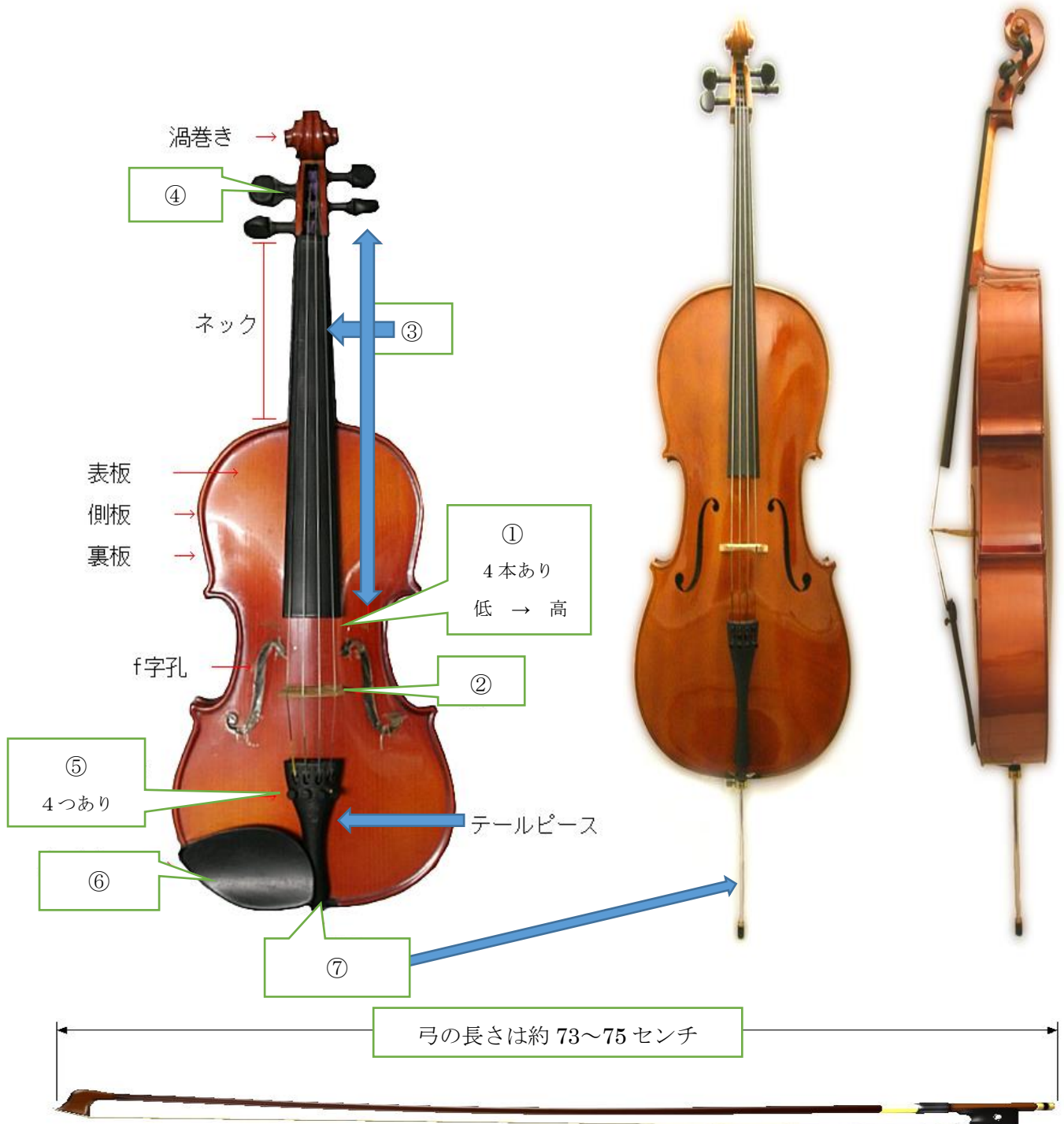
スティックの端についている回す部分。これを回すと弓の毛の貼り加減が変わります。調整して適度な張りにして使用します。

⑪【 】

弓の毛に塗る樹脂です。これを弓の毛に塗ることで音が出ます。

ヴァイオリン (ヴィオラ)

チェロ



弓

5、基礎知識②【演奏技術】

周囲の人と協力して【 】空欄をうめましょう！

① 【 】

あらかじめ弦の音程を合わせておくこと。

ヴァイオリン【低 → → → 高】 ヴィオラ・チェロ【低 → → → 高】

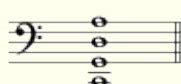
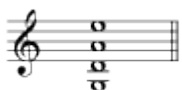
読み方： _____

読み方： _____

■ヴァイオリン

■ヴィオラ

■チェロ



※【 】
指で弦を押さえずにそのまま弾くと、この音程が鳴る。

② 【 】

弓の動かし方。美しい音を出すには、弦を押さえる左手よりも、弓を動かす右手の方が訓練に時間と労力が必要になると言われています。

③ 【㉑： 】 【㉒： 】

弓を持つ手に近い側を㉑、また、手から離れた箇所のことを㉒と呼びます。また、弓の先端付近で弾くことを「先弓（さきゆみ）で弾く」、弓の中央付近で弾くことを「中弓（なかゆみ）で弾く」、弓の手元付近で弾くこと「元弓（もとゆみ）で弾く」などと表現されることがあります。

④ 【㉓： 】 【㉔： 】

弓の元から先に動かすことを㉓、弓の先から元に動かすことを㉔と呼びます。どちらで演奏してもほぼ同じ音色・響きになるように訓練します。楽譜上では、㉓を \blacksquare 、㉔を \blacktriangledown と表記します。

⑤ 【 】

ある弦から別の弦へ弓で擦る弦を変えること。これがスムーズにできないと音が途切れ、音楽もつながり無くなってしまいますので、訓練は大切です。

⑥ 【㉕： 】 【㉖： 】

左手の指を押さえる動作のことを㉕と呼びます。押さえる指によって音色が多少違ったり、フレーズのつながりに影響します。指の指定のために、ピアノなどと同じく㉖を使用しますが、ピアノと違い、弦楽器では人差し指を1の指、中指を2の指、薬指を3の指、小指を4の指と呼びます。何も押さえない状態を開放弦と呼び0と表記します。

⑦ 【 】

左手を押さえる位置を変えること。左手の押さえる位置は、必要とする音の高さや音色によって変化させます。

⑧ 【㉗： 】 【㉘： 】

弓で弦をこするときには、通常100本ほど張ってある弓の毛を全て使うことが原則ですが、使用する弓の毛の分量を調整しながら演奏することが多々あります。弓の毛を全部使わず、弦に触れる部分を少なくして演奏することを㉗、多くの毛を使って演奏することを㉘と表現します。